

黒田総裁、現状維持。どうする植田新総裁

ポイント① 黒田総裁、最後は現状維持

日銀は、3月9-10日の金融政策決定会合で大規模な金融緩和策の維持を決めました。本会合は、2013年に就任した黒田総裁の最後の会合であり、大規模な国債や上場投資信託（ETF）等の買入措置、マイナス金利政策、イールドカーブ・コントロール（YCC）といった異次元緩和策は維持されたまま、黒田総裁は任期を終えることになりそうです。10年間の政策運営は、金融緩和策の限界に挑み続けた結果といえるでしょう。これらの緩和策は、次期植田総裁が引き継ぐことになりました。

ポイント② 異次元緩和の評価と課題

黒田総裁の下、日銀はいわゆるアベノミクスの一翼として行なった異次元な金融緩和措置により、円安の進展、景気回復支援、デフレ回避といった効果をもたらしました。一方、需要拡大を背景とした2%のインフレ目標は実現に至らず、財政の規律が失われ、行き過ぎた円安による輸入コストの増加、金融市場機能の低下といった面も指摘されており、異次元緩和策の評価が求められています。

ポイント③ 植田新総裁の政策運営

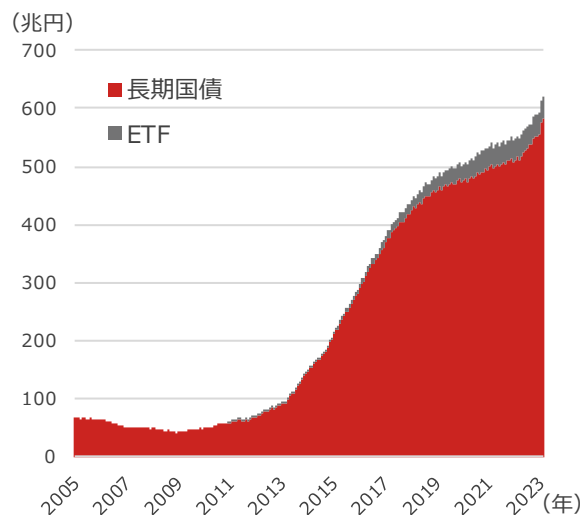
植田新総裁の出口戦略は、市場機能の回復に向けたYCC措置の見直し、2%の物価安定目標達成の確認、国債およびETF等の買入措置の見直しが検討されるものと考えられます。とりわけ大幅な賃金上昇が出口戦略の実施に不可欠な条件であり、慎重な政策運営になるものと見られます。物価安定に向けた植田日銀の取り組みに注目が集まります。

円/米ドルレートと株価の推移



期間：2005年1月末～2023年3月、月次、2023年3月は9日現在
（出所）Bloombergデータ、各種資料より野村アセットマネジメント作成

日銀が保有する長期国債とETFの推移



期間：2015年1月～2023年2月、月次
（出所）日本銀行「日本銀行勘定」より野村アセットマネジメント作成

4月9日 植田和男氏、日銀総裁に就任
重要
イベント 4月27-28日 日銀・金融政策決定会合
(28日結果発表)